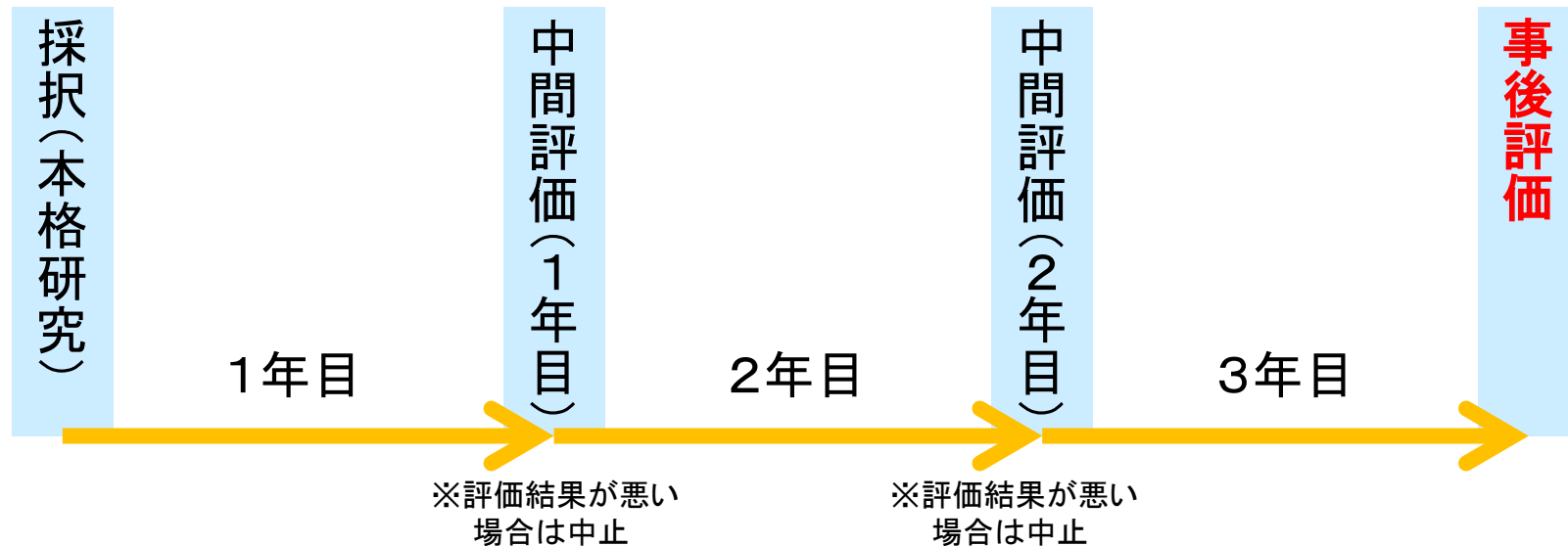


# 令和5年度終了課題の事後評価の実施方針案について (概要)

# 1. 本格研究の事後評価の位置付け及び目的

## ■ 位置付け

本格研究の採択～評価の流れ(研究期間3年の場合)



## ■ 目的

事後評価(本格研究)

- ・ 研究課題の目的達成度や研究成果等を適切に把握し、研究成果の道路政策への反映見込み等を評価
- ・ 今後の制度全体の評価や見直し等に活用すること

## 2. 事後評価の手順(スケジュール)(案)

### ① 研究終了報告書の提出

(3月～5月末)



### ① 書類の事前査読 (書面による評価)

(～6月末)

- 評価分科会各委員による書類の事前査読。  
(委員からの質問・コメントがある場合は、研究代表者へ事前に連絡)



### ② 研究評価会・研究成果発表会の開催

(7月頃)

- 各分科会ごとに研究評価会を開催。
- 分科会各委員は研究課題ごとの事後評価シートを作成。
- 各委員作成の事後評価シートを基に、研究課題ごとの事後評価(案)作成のための審議。



### ③ 事後評価(案)の作成

(7月末)

- 研究評価会后、分科会長が事後評価(案)を作成。



### ④ 事後評価の決定

(8月頃)

- 新道路技術会議において事後評価(案)を審議し、合議により事後評価を決定。



### ⑤ 事後評価結果の通知及び公表

(8月頃)

- 研究代表者に書面にて事後評価結果を通知
- 道路局HP等において、成果報告レポート及び公表用資料と併せて事後評価結果を公表

### 3. 事後評価の視点及び基準(案)

#### ■ 評価の視点

|           |                  |  |
|-----------|------------------|--|
| 研究の<br>視点 | 研究目的の達成度         | 研究目的に照らして、その達成の度合いはどうか。                            |
|           | 研究成果             | 評価できる研究成果を上げたか。研究成果が当該研究分野等の発展に寄与できたか。             |
|           | 研究成果の<br>活用・発展性  | 得られた研究成果の活用や発展性などの今後の展望はどうか。研究成果の積極的な公表・普及に努めているか。 |
| 行政の<br>視点 | 道路政策の質の向上への反映見込み | 研究成果の実務への反映見込み等、道路政策の質の向上に資するものとなっているか。            |
|           | 研究費規模とその成果       | 配分された研究費規模に見合う、研究成果及び道路政策の質の向上への寄与となっているか。         |

#### ■ 評価の基準

| 評点 | 説明                     |
|----|------------------------|
| A  | 研究目的は達成され、十分な研究成果があった。 |
| B  | 研究目的は概ね達成され、研究成果があった。  |
| C  | 研究成果は一部に留まった。          |
| D  | 研究成果があったとは言い難い。        |

## 4. 令和5年度事後評価 対象研究テーマ及び担当委員(ソフト分科会)(案)

| 分科会    | テーマ・領域 | タイプ | 採択年度・番号 | 委託研究テーマ                                      | 研究代表者                     | 研究概要   |
|--------|--------|-----|---------|--|---------------------------|--|
| ソフト分科会 | 3      | I   | 2020-5  | 車道基本の自転車通行環境整備による交通事故特性と新たな道路交通安全改善策に関する研究開発 | 大阪公立大学大学院<br>准教授<br>吉田 長裕 | 本研究では、自転車の車道走行と広域化に伴う事故特性を把握し、自動車・自転車のコンフリクトを再現する仮想道路空間実験による科学的知見に基づき、新たな道路交通安全改善策とともに持続可能な安全の段階的向上策を提案する。                       |
|        | -      | IV  | 2021-1  | 特殊車両の折進可否判定の自動化と特車フリー道路ネットワーク計画手法の研究開発       | 立命館大学<br>教授<br>塩見 康博      | 衛星画像データ等に基づいて交差点平面図を生成する手法や、特車の折進可否と通行条件判定、走行軌跡生成を自動化する手法を開発すると共に、速達性や頑健性等の指標に基づく特車フリー道路ネットワーク計画手法を構築する。                         |
|        | -      | IV  | 2021-2  | カメラ画像および複数の観測データを融合した次世代交通計測手法に関する研究開発       | 東京理科大学<br>准教授<br>柳沼 秀樹    | 道路ネットワーク上の常時観測データを取得可能とする次世代型交通計測システムの構築を目指し、AI 解析、カメラ画像を活用した交通移動体の高精度検知手法、複数の交通データを融合した交通量等計測データ生成・補正手法の開発に取り組むことを目的とする         |
|        | 3      | I   | 2021-3  | 高速道路における Proactive 型交通マネジメント方策についての研究開発      | 岐阜大学<br>教授<br>倉内 文孝       | 本研究は、AI 技術を活用した交通状況ナウキャストをトリガーとし、ゲーミフィケーションによる行動変容提案のデザインアルゴリズムを構築し、チャットボットを通じて走行中に安全に行動変容提案をする Proactive 型交通マネジメント方策を開発するものである。 |
|        | -      | IV  | 2022-2  | 権利と効率のストック効果に基づく社会的意思決定方法と実用的なストック効果計測手法の開発  | 神戸大学大学院<br>教授<br>小池 淳司    | 権利と効率のストック効果に基づく道路事業の社会的意思決定方法および道路事業が有する多面的な機能の評価のための実用的なストック効果計測手法の開発を行う。  |

## 5. 令和5年度事後評価 対象研究テーマ及び担当委員（ハード分科会）（案）

| 分科会    | テーマ・領域 | タイプ | 採択年度・番号 | 委託研究テーマ                                       | 研究代表者                  | 研究概要   |
|--------|--------|-----|---------|---|------------------------|--|
| ハード分科会 | -      | IV  | 2020-6  | 走行中の電気自動車に連続的に無線給電を行う道路の実用化システムの開発            | 大成建設<br>栄誉研究員<br>新藤 竹文 | 本研究では、高効率で汎用性に優れた無線給電を行う道路システムを実現するために、電界結合方式無線給電技術における給電効率や電気自動車への給電制御、舗装の強度や耐久性、修復・更新方法などの実用化技術を開発する。                              |
|        | -      | IV  | 2020-7  | 走行中ワイヤレス給電のコイル埋設についての研究                       | 東京理科大学<br>准教授<br>居村 岳広 | 走行中充電における道路側コイルの電気的特性と機械的強度向上させた上で、アスファルトへの埋込み技術確立を目的とする。電気的特性(効率・電力など)と機械的特性(耐久性など)を従来コイルと比較し、経年劣化の評価を行い、埋込み深さの最適化、低コストコイル等の可能性を示す。 |
|        | -      | IV  | 2022-3  | 統計的アセットマネジメント手法に基づくバックキャスト型道路政策の深化についての技術研究開発 | 大阪大学<br>准教授<br>貝戸 清之   | 応募者等が開発したアセットマネジメントを高度化させ、アセットマネジメントと1)劣化属性情報, 2)EBPM, 3)リスクマネジメントとの融合により、それぞれバックキャスト型道路政策を支援・深化させるための方法論を開発する。                      |
|        | -      | IV  | 2022-4  | ICTと商用車プローブデータを活用したAIによる道路維持管理システム            | 長崎大学<br>教授<br>松田 浩     | 道路点検にスマートフォン、ドライブレコーダー及び商用車プローブデータを活用し、高い品質と維持管理の効率化・高度化を図るとともに、路面劣化メカニズムを過去の点検データや道路台帳、交通量など様々な因子から分析し、AIを活用して次世代型維持管理計画策定手法を開発する。  |